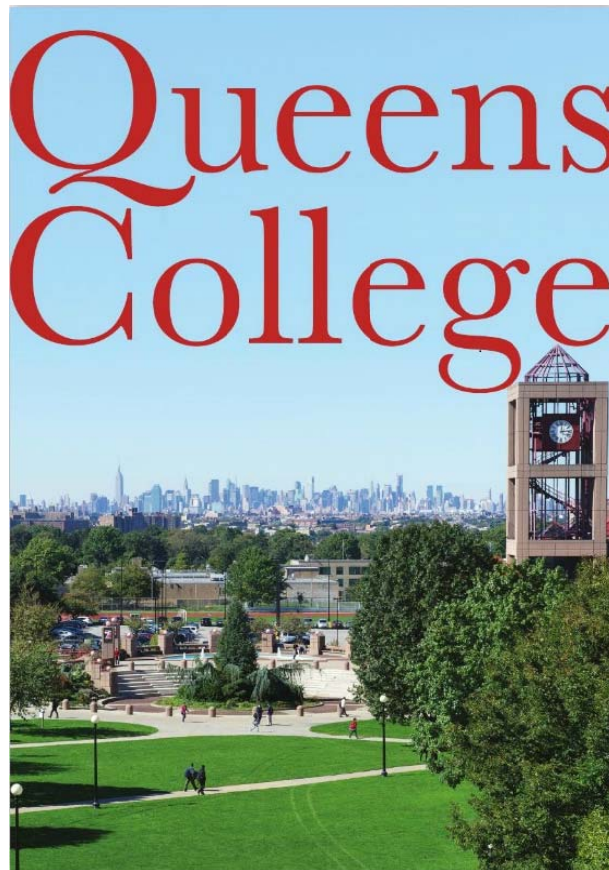


豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構

## QC だより

(第 15 号 平成 27 年 11 月 16 日)



## ■ 主要活動報告

### クイーンズカレッジとニューヨークと予期しなかった経験について

豊橋技術科学大学 秋葉友良

時間を7、8月のELI夏季講習時に少しだけ遡ります。Writingの授業では、「同性愛者の権利」、「ソーシャルメディアの功罪」、「子供の創造性を伸ばすためには」といった与えられたテーマについて、エッセイを書いてくるという週末の宿題がありました。上に挙げた最後の課題について、私のエッセイの主題は次のようなものでした。「確かに過度な統制は子供達の創造性を奪うでしょう。しかし、全く統制しないのも問題です。適切な制約を与えることが子供達の想像力を育てる最も良い方法でしょう。」今、自分自身を振り返ってみると、我々のグローバルFD研修にも同じことが言えるのではと感じています。

8月末からクイーンズカレッジの秋学期が始まるとともに、我々は単位取得および聴講のために幾つかの講義に出席し始めました。しかしながら、私は自分自身に最も関連のある幾つかの講義を受講できないことがつきました。それは、単に今学期に開講されていなかったり、金曜日に我々グローバルFDメンバーのために用意された英語教育に関する講義と重なっていたりしたためです。限られた時間割り当ての中で受講科目を決める必要があったため、私は思い切って、私の専門の計算機科学コースからは1科目のみ、他のコースから4科目を選択することにしました。それにも関わらず、後にこれは非常に良い選択であったことがわかりました。私が最も感銘を受けているのは、本プログラムのコーディネーターの一人でもあるEva Fernandez教授による言語学に関する講義です。言語学は、我々のような第二外国語を学ぶ者にとって、習得対象の「言語」を客観的に理解するという点で、非常に関連した科目であることがわかりました。それだけでなく、彼女の講義方法はたいへん示唆に富むものでした。彼女は、BlackboardやMoodleなどに

代表される学習管理システム(Learning Management System; LMS)のヘビーユーザーであるとともに、講義の中に新しい技術を取り入れることにとっても積極的です。例えば、彼女のすべての講義はビデオ共有ウェブサイト(YouTube)の機能を使って録画され、学生が復習で使えるように授業直後に公開されます。わたしがもし関連する講義だけを選択していたら、このような講義に遭遇することはなかったでしょう。

私が唯一受講している計算機科学の講義では、しばしば学生に対してグループワークの課題が出されます。グループワークとは、学生同士で3~4名程度のチームを作って、共同で課題を行いレポート作成するといったものです。私は本来教員でもあるため、学生の課題にどれだけ立ち入るべきか悩まされています。つまり、私一人ですべての課題をやってしまったのは学生の為にならないだろうと考えるのです。そこで、私はチームに対して有用なコメントだけを与えて、直接答えは与えないように努めることで、少し受動的に関わろうと決めました。しかし、チームメイト達は私の思惑通りには働いてくれず、常に悩みの種になっています。彼らをやる気にさせることも私の役割のひとつになりました。このような経験は、本研修以外では決して得られないであろうと考えています。

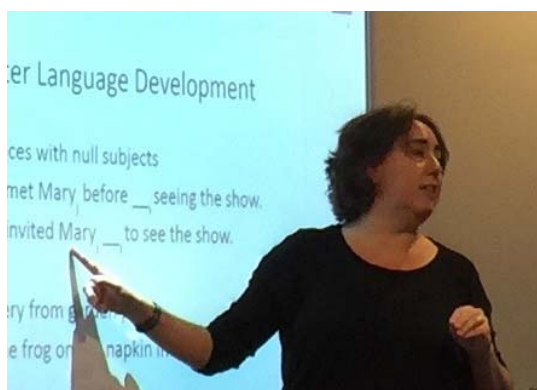
秋学期から、私のメンター教員であるBon Sy教授との共同研究も本格的になりました。彼の研究分野である医療診断用知識ベースシステムは、私の研究分野、音声言語処理、とは多少の開きがあります。そのため、当初は共同研究も限られたものになるだろうと、私は考えていました。しかしながら、彼は双方にとっても魅力的な研究テーマを提案してくれました。あいにく、ウィークデーには私は講義が埋まっており、彼も講義を受け持っているので、

共通の時間を取ることができません。現在、教授と研究室の Ph.D. 学生、私の3人で日曜日の午前中に定期的な研究ミーティングを行っています。研究ミーティングでは、私はいつも英語でのコミュニケーションとともに、我々のバックグラウンドの違いから来る考え方の相違に苦闘しています。お互いに全く異なる言語でコミュニケーションを行っているように、いつも感じます。しかしながら、ミーティングはとても充実しています。私はしばしば彼らから新しい考え方を学ぶことができますし、私も彼らにとって新しい方法や研究資源を提供することができます。将来、さらなる研究協力につながっていくことを期待しているところです。もし我々が同じ研究分野であったならば、このような経験は得られなかったであろうと考えています。

ニューヨークでの日々の生活では、我々は常に円安の影響に苦しめられています。例えば、レストランで席について夕食を食べた場合、税金とチップ込みで少なくとも約\$20(2,500円)かかります。したがって、私は食事を自分で作ることに決めました。スーパーマーケットでの食料もやはり高く、またニューヨークのバスの片道料金は\$2.75(約330円)もします。そこで、私は比較的安いスーパーまで歩いて買い物に行くことにしています。歩くこと、買い物、料理、片付けには、それなりに時間を伴います。しかしながら、私はこれらを肯定的に受け入れています。すれ違う人々、携帯電話で話している人、ストリート沿いの住宅と庭の様子、公園の自然、公園での遊びやトレーニング、交通標識、ゴミ箱、騒音、匂い、など、歩いているときに遭遇する瞬間瞬間に生活の断片を発見します。スーパーマーケットで食品を物色しながら、安価で手間のかからないメニューを考えることは、私の好きなことのひとつになりました。とりわけ、これらは私にニューヨークでの生活の実感を

与えてくれます。

これまで述べてきたように、我々は研修中に様々な制約に直面するとともに、それらは予期しない、かけがえのない経験を与えてくれていると、私は考えています。最後に、最初に述べた私のエッセイから締めめの文を引用して本稿を終わりたいと思います。"Put them in a playground surrounded by a fence. They will come up with a good way to play there by themselves. And, sometimes, they may find out a way to go beyond the fence in order to enjoy more lively games. Such activity is only possible when the fence is there."



Eva先生の授業風景



研究ミーティング後のランチの様子。左から、Ph.D. 学生の Ayman、Sy 教授、私、卒業生の John。

## 秋学期の授業

東京高専 市川裕子

高校時代に「カリフォルニア物語」<sup>1</sup>を読んで以来の夢であったニューヨーク生活も4ヶ月目に入りました。当初のようにバスに乗り間違えることもなくなり、旅行者ではなく住人になってきた感じがしています。さて私たちは秋学期からは学生として授業を聴講しています。こちらも9週間目に入り、大分慣れてきました。ここでは、私が聴講している授業を紹介したいと思います。

Queens College の授業は1科目が、通常は1回75分週2回(月水または火木)で行われています。それ以外に1回が50分、110分、150分、170分の授業、回数も週1回のもの、2回のものなどいろいろな形態があります。授業は朝7:45から夜10:30まで開講されています。昼休みという時間は特にありません<sup>2</sup>。

私たちは研修プログラムとして1科目の単位を取得することを義務付けられていますが、私はこれを含めて8科目の授業に出席しています。そのうち4科目が「線形代数2」「確率」「統計」「微分」と数学です。数学の授業スタイルは普通の講義型です。「微分」将来高校の先生になる教育専攻の1年生向けの授業です。彼らは微積分の勉強を始めばかりです。「微分」以外は高学年の科目です。日本の授業との違いを感じるのは、計算機を使うことを推奨していることです。行列式を求める、極限を推測する、など様々な場面で計算機を使って求める方法を先生が説明しています。現在「微分」の授業の聴講を一旦終わりにし、「微分方程式」を聴き始めたところです。

「教育心理」これは、特に高校の数学教

員になる学生の、1年生向けの授業です。教科書を読んで、「認識する」とは何か、あるいは記憶のメカニズムなどを学んでいます。宿題として課された問題をグループでディスカッションし、その内容を発表するなどのアクティブラーニングスタイルの授業です。授業外に、近所の中学に実際に授業を見に行くフィールドワークが週1回あります。見学する授業の前後に見学のポイントや、実際にみてどうだったかなどを話し合います。

「日本文学」の授業では、20世紀の日本文学の英訳を読んで、先生と学生がディスカッションしながら授業が進みます。

「音楽史」の授業では17世紀から18世紀にかけての西洋音楽の歴史について学んでいます。理論を学んだ後、実際に音楽を聴いて理論の確認をしていきます。学生は当時の作曲者の直筆譜を読むことや、その時代の曲を演奏することが課せられています。

これ以外に私たちグローバルFDの教員のための授業 Academic Language Support, Teaching In English が金曜日に用意されています。

これだけの授業に参加すると、聞くだけでかなりのハードワークです。どの科目もたっぷり宿題が出て、きちんとやるには相当な時間が必要です。学生は学期毎に4-5科目程度の登録が普通のようなようです。私も残念なのですが数学と、金曜の英語の授業の宿題と、日本文学を読んでいく以外は時間的に手が出せない状況です。数学は私の専門であり、数学英語は単純な表現が多いので非常に分かりやすいです。数学の授業は英語のみならず、授業で取り扱う問題や説明の仕方等、日本に戻ってから授業を行う際に役にたつと感じています。

<sup>1</sup> 吉田秋生、1975、小学館 ストーリーの半分以上がマンハッタンを舞台とします。

<sup>2</sup> 授業中にランチを取る学生さんもいます。先生は特に何も言いません。

「心理」「文学」「音楽史」の3つは、私にとってかなりのチャレンジです。バックグラウンドが薄い分理解が難しいですが、少しずつ細かい部分分かるようになってきた感じがしています。多くの授業に参加することで、英語に触れる機会が増え必ず得るところがあると信じて出席しています。

授業に出席して感じていることは、相手が私の話す英語を理解しようとしてくれていれば、意思疎通はできるということ。講義に関して、聞き取れないのは多くの場合は語彙不足であるということ。授業で先生の話す英語は文法的にも音量も非常に聞き取りやすいが、学生との雑談になると急にわからなくなること、などです。学生のグループワークでのディスカッションなどが最も聞き取るのが困難です。私たちが日本語を話すことを考えれば、これは当然で、彼らも友人同士のラフな会話では文法に則った日本語など話していないのです。

最終目標はこのラフな会話や授業中のディスカッションに気負わず参加できるようになるこ

とですが、残り2ヶ月強の時間でどこまで行けるでしょうか。悔いの残らないようにできる限り頑張りたいと思っています。

最後に、研修先がニューヨークであることの雑感を。まず素晴らしいのは、ニューヨークは文化に溢れていることです。美術、音楽、スポーツと触れたいもの本当にたくさんあり、時間(とお金)がいくらあっても足りない感じがしています。ジャズ、クラシック、ロック、メトロポリタン美術館、自然史博物館、全米オープン、メジャーリーグ、NBA などなど。この素晴らしい場所で研修を受けさせていただいていることに本当に感謝しています。滞在中にできるだけ触れて感じて帰りたいと思っております。さて、ニューヨークには実に様々な人種が住んでいて、話す英語も様々です。その結果、ニューヨークの人は、どんな英語でも理解してくれます。私たちのカタカナ英語でかなり通じてしまうのです。これに助けられることも多いのですが、大切な発音練習が後回しになりがちです。ただ、この多様性こそがニューヨークなのですが。



音楽史のパフォーマンスの様子



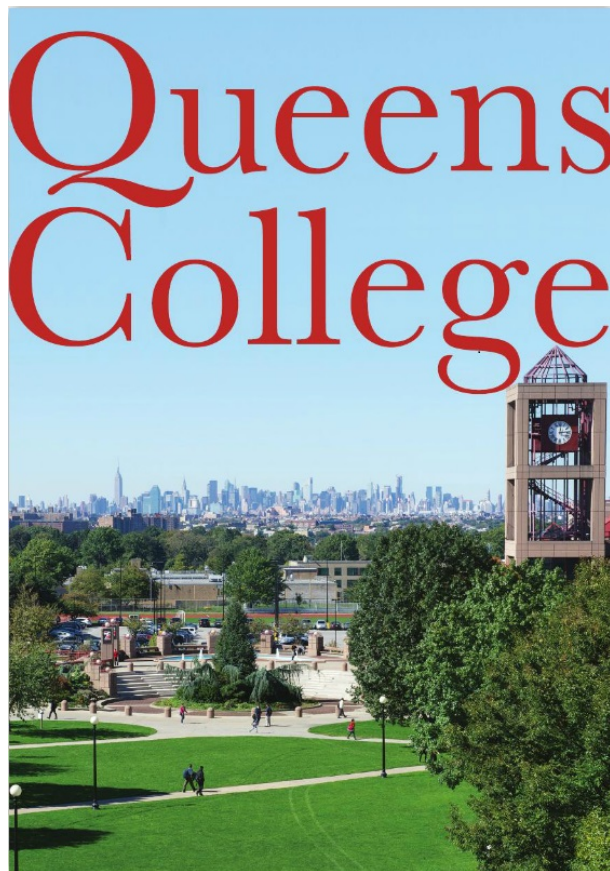
教育心理学のグループワーク

豊橋技術科学大学  
グローバル工学教育推進機構  
国際教育センター  
愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1  
Tel:0532-81-5161  
Mail:unireform@office.tut.ac.jp

**Toyohashi University of Technology,  
Institute for Global Network Innovation in  
Technology Education**

**News from QC**

**(Vol. 15 2015/11/16)**



## ■ Reports

### Queens College, New York, and My Unexpected Experiences

Tomoyoshi Akiba, Toyohashi University of Technology

Let me look back shortly on the days in our ELI class during this summer. A teacher gave us weekend homework assignments of writing an essay on a given theme, such as "gay rights", "pro and con for social media", and "how to develop creativity for children". For the last theme above, the thesis of my essay was something like this: "Though over-control is certainly a creativity killer for children, no-control is also a bad idea. Instead, giving an appropriate restriction on what they do should be the best way to develop children's creativity." When I'm looking back on myself, I am feeling that the same goes for our global FD program.

As the fall semester of Queens College began from the end of August, we started to attend several courses either for earning a credit or just for auditing. However, I found I could not take some subjects that were most related to me, because they were not given in this semester or were given on Friday when we had to attend the two other English classes provided just for us, the GFD teachers. I had to select my classes from the restricted time table available for us, so I decided to take only one course from my major, computer science (CS), and four from those other than CS. Nevertheless, this turned out very well for me. The most impressive course I'm taking now is about linguistics given by Prof. Eva Fernandez, who is one of the coordinators of our program. I found linguistics as a subject is really relevant for second language learners like us, since it provides us an objective insight into our learning target, i.e. language. Not only that, but also her method of teaching is

thought-provoking. She makes full use of the learning management system (LMS), such as Blackboard and Moodle, and seems to always try to introduce new technologies into her lectures. For example, all of her lectures are recorded by using a video-sharing website so that students can review past lessons. I would miss such a lecture, if I took the most appropriate courses.

Speaking of the only CS course I'm taking, the teacher often give students a group work assignment, in which three or four students make a team to make up a report. As you know, I am a teacher, so I always worry about how closely I should participate in it, i.e. it would not be good for the other students in my team if I did all the work by myself. So I decided to do it a little passively by trying to give them only useful comments but not an answer. Indeed, they often did not work as I expected, which annoyed me very much. Therefore, motivating them to do their work became another role of mine. This might be a kind of lesson we would never have experienced other than in this program.

From the fall semester, the research project with my mentor, Prof. Bon Sy, also became in earnest. His research area, knowledge-based systems for medical diagnosis, is a little different from mine, spoken language processing. Therefore, I had expected that our research collaboration would be limited. However, he kindly proposed an attractive research topic related to both of us. He, his Ph.D. student and I are now having weekly research meetings every Sunday morning because we cannot find any sharable time slot

on weekdays. In the meeting, I always struggled with not only communication in English but also the differences in our backgrounds. I am always feeling as if we are talking with different languages. Nevertheless, I think that it is really fruitful, because I can often learn a new way of thinking from their approaches, and I can also provide our methods and resources that are new for them. I hope it will bring us further collaboration in the future. This is also a kind of experience I would have never had if we were from the same research field.

Talking about our daily lives in New York, we were suffering from a low exchange rate of the yen. For example, when I have a seat at a restaurant for my supper, it costs a minimum of around \$20 (2,500 yen) including tax and tip. Therefore, I decided to cook meals everyday for myself. Food at a super-market is still expensive and a one way bus fare in New York is \$2.75 (about 330 yen), so I always have a walk to a cheaper supermarket. Walking, shopping, cooking and washing-up also take up quite a lot of my free time. Nevertheless, I have found myself enjoying them so much. While I am walking, I can discover various fragments of life everywhere, such as passing people, those talking on their cellphones, houses and gardens on the street, nature at a park, playing and exercising in it, traffic signs, dustbins, noise, smells, etc. Now it is one of my favorite things to seek a cheap and easy-to-make recipe while I am shopping around in a supermarket. Among others, they give me a feeling of reality about life in New York.

As I mentioned so far, we have faced a lot of restrictions in our programs. At the same

time, I believe we have enjoyed a lot of unexpected but irreplaceable experiences. Last of all, I would like to quote the final sentences taken from my essay to which I referred at the beginning: "Put them in a playground surrounded by a fence. They will come up with a good way to play there by themselves. And, sometimes, they may find out a way to go beyond the fence in order to enjoy more lively games. Such activity is only possible when the fence is there."



A scene taken from the psycholinguistic course given by Prof. Frenandez



A snapshot with my lab members, Ayman who is a PhD student, Prof. Sy, me, and John who is an ex-member, from left to right



## Classes in the Fall Semester

Yuko Ichikawa, National Institute of Technology, Tokyo College

I am already in the fourth month of my New York life. Living in New York has been my dream since I was a high school student and read a girl's comic "California Story."<sup>3</sup> I got used to the life here and I don't get on the wrong bus now. I feel I'm not a traveler but an inhabitant. We are now students of Queens College and are attending courses during the fall semester. It started at the end of August and I am also getting used to them. Here I introduce the courses that I'm taking to you.

The courses in Queens College usually have two 75minute classes a week: Monday and Wednesday or Tuesday and Thursday. Beyond that there are several types of classes, 50minute long, 110minute long, 150minute long, 170minute long or one time a week, two times a week and so on. There is no lunch break time.<sup>4</sup>

We are required to take one credit course. I'm attending eight courses including the credit course. Four of them are mathematics: Linear Differentiation, Linear Algebra II, Probability and Statistics. The styles of these classes are usually lectures. Differentiation is a course for freshmen who will become high school teachers. They have just started studying calculus. The other math courses are for junior or older. The biggest difference from a Japanese math class is that the instructors recommend using a calculator: to calculate a

determinant of a matrix or to predict a limit. Instructors explain how to use it. I've just started attending the courses "Differential Equation" instead of Differentials.

"Psychology of Development and Learning of Student of Mathematics at the Secondary School Level" is the course for freshmen learning education. Most of the students in this class are the same as those who are in the Differentiation class I took. They are studying about what is learning, what is cognition and the mechanism of memory. This class is conducted in the style of active learning. Students do the homework, discuss about the questions and state their opinion. Students also do the fieldworks in the middle school near here. They observe a class there. Before and after the observation they discuss what they should focus, on that day, and what they actually saw.

In the course "Modern Japanese Fiction in Translation" students read 20 century Japanese novels. The classes are taught by the discussion of the instructor and students.

In "Music History II" students learn about the history of western music of 17th or 18th centuries. They study the style of the music of the era and experience it by listening to the real music. They are required to read the facsimile of the composer and play the old music.

---

<sup>3</sup> Written by Akimi Yoshida, published in 1975 by Shogakkan. More than half of the locale is Manhattan.

<sup>4</sup> Some students have lunch during the class. Instructors don't pay attention of that.

On top of that, on Friday there are two courses provided for us, Global FD teachers; “Teaching in English” and “Academic Language Support”.

Because I’m attending such a lot of courses, it is really hard even though I am just listening to them. In every course, students have to do a lot of homework and it makes them spend a great deal of time, so they usually enroll in five courses or less in every semester. I can do only homework for math classes and classes on Friday and reading Japanese novels. To my regret, I have no spare time to do the other homework. The math classes are very understandable for me because my special field of study is mathematics and it can be described in simple English. In math classes I’ve learned many useful things: the questions that the instructors deal with or how they explain theories. These will help me when I will go back Japan.

Psychology, Literature and Music History are the challenging classes for me. I have little background in them, so the English is much harder. But little by little I’m getting better at catching the details of them. I believe it makes my English better to attend many courses.

While I have been taking part in these courses, I realized something. Firstly I can communicate in English if the person tries to understand me. In the classes, the biggest reason that I can’t catch what people say is due to my lack of vocabulary. All English spoken by instructors is clear, grammatically correct and easy to understand. Once they start small

talk I can hardly understand what they say. The discussions among students is the most difficult to understand. They speak in an ungrammatical way. Thinking of how we talk in Japanese, it is quite natural. My goal is to join their informal conversation. I have only slightly more than two months left. I wonder how I can get my goal, but I will try to do my best.

Finally, I would like to write my thoughts about New York. First of all, New York is full of cultures. There are a great number of cultural things: arts, music, sport and so on. I can’t experience all of them. I don’t have enough time (actually and money): Jazz, Classic, Rock, The Metropolitan Museum, The Natural History Museum, U.S. open, Major League, NBA... I really appreciate having me such a chance to study in this amazing place. During my stay here, I would like to experience as many various things as I can. Secondly, New York has enormous diversity: many races of people are living here and they speak various dialects of English. That makes native speakers understand any kind of English such as our Katakana English. That sometimes helps us but I tend not to pay attention to pronunciation. But it is only because of NEW YORK!



Student’s performance in the music history course



Group work in the educational psychology course

Toyohashi University of Technology  
Institute for Global Network Innovation in Technology Education  
Center for International Education  
1-1, Hibarigaoka, Tempaku-cho, Toyohashi, Aichi, Japan  
Tel: +81-532-81-5161  
Mail: [unireform@office.tut.ac.jp](mailto:unireform@office.tut.ac.jp)